

JP003 サロベツ原野 (さろべつげんや)

北海道：稚内市、豊富町、幌延町、天塩町

位置	N 45° 06′ E 141° 41′
面積	15,000ha

環境構成【湿地、湖沼、砂丘林、湿原（低層・中間層・高層）】

サロベツ原野は、サロベツ川の流域にあり、開拓初期の湿原は東西 5～8 km，南北 27km にわたって広がり、面積はおおよそ 20,000ha あり、その 70% の 14,600ha が泥炭地となっている。パンケ沼、パンケ沼、兜沼をはじめ、いくつもの湖沼が点在しておりこれらの湖沼では水鳥たちの渡りの中継地となっている。

サロベツにおいて湿原は、低層湿原～中間湿原～高層湿原と分布しており湿原の成り立ちが自然観察遊歩道を歩くだけで体感できる。また、低地において高層湿原の植物等を観察できるのもサロベツの特徴であり、現在においても自然景観を維持している。

近年、地下水位の低下により湿原の乾燥化が懸念され、秋にはササ刈りを実施している。



写真：水上勝夫

選定理由

A4i	ヒシクイ
-----	------

保護指定

サイトの全域（90%以上）に法的な担保がある

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区（サロベツ）、国立公園（利尻礼文サロベツ）、自然環境保全地域、保護林

<その他>

ラムサール条約登録湿地

保全への脅威

- ・湿原の乾燥化による湿原性植物の植生変化と鳥類への影響

- ・風力発電施設建設による渡りの時期のワシ類の激突死等の鳥類への影響
- ・パンケ沼及びペンケ沼等湖沼の水質低下と自然環境の変化

保全活動

- ・利尻礼文サロベツパークボランティア幌延部会：自然観察会
- ・NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク：自然観察会、砂丘林再生
- ・日本野鳥の会道北：ヒシクイ探鳥会

見られる鳥

サロベツ原野には、数多くの野鳥の飛来が確認されている。幌延ビジターセンター内の湿原はツメナガセキレイの繁殖地となっており、6月頃は観察の適期である。

2017年現在、シマアオジの国内唯一の繁殖地である。

春の渡りの時期はノゴマ・ノビタキ・ツメナガセキレイ、コヨシキリ等の夏鳥を観察できる。秋の渡りの時期には7,000~8,000羽のヒシクイ及びマガンが渡りの中継地としてサロベツに飛来する。ガン類の群れに混じり、カリガネが観察されることもある。また、近年タンチョウの繁殖が確認されており、秋には育ったタンチョウが観察される。

留鳥	エゾフクロウ、アカゲラ、コゲラ、ヤマゲラ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ヒヨドリ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ミヤマカケス
夏鳥	ノゴマ、ノビタキ、ツメナガセキレイ、アオジ、シマアオジ、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、マキノセンニュウ、アカハラ、コマドリ、ベニマシコ、ヒバリ、カッコウ、ツツドリ、オオルリ、タンチョウ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオジュリン、ツバメ、ショウドウツバメ、アマツバメ、シメ、オオジシギ、コチドリ、イソシギ、アカエリカイツブリ、カワセミ、ルリビタキ、コヨシキリ、キビタキ、エゾムシクイ、ハクセキレイ、ホオジロ、チュウヒ、ミサゴ
冬鳥	キレンジャク、オオワシ、オジロワシ、ヒシクイ、マガン、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ
旅鳥	ヤツガシラ、カシラダカ、オオハシシギ、ツルシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシギ、キアシシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、アカエリヒレアシシギ、ユリカモメ、アジサシ、トウネン、アトリ、ハイイロチュウヒ
迷鳥	モモイロペリカン、オジロビタキ

関連団体・自治体・施設等

- ・ 幌延ビジターセンター

